

『所沢市の誕生』講座

2024-03-13 記 小倉洋一

■実施日：2024-03-07

■参加者：39 名(内ところざわ倶楽部 2 名)

■場 所：生涯学習推進センター多目的室

■講 師：所沢市文化財保護課 木村立彦氏

はじめに

木村立彦先生を講師に迎えての講座は今回で 10 回目である。第 1 回目は 2014 年「武蔵野話」を聴くテーマが始まりで、以降、毎年サークルの名に相応しく所沢に関するテーマを取り上げてきた。今回は、戦後復興がまだ緒についたばかりの昭和 25 年に所沢市がどのような背景で誕生したのか、エピソードや当時の資料を参考に学んだ。

本日の講義は以下の通り進めていただいた。

1. 前史 ～町村合併を中心に～
2. 市制施行にいたる経緯と背景
3. 市制施行とめざましいもの
4. 三ヶ島、柳瀬の合併



1. 前史～町村合併～

現在の所沢市域の行政区は所沢、松井、富岡、小手指、山口、吾妻、新所沢、新所沢東、並木、三ヶ島、柳瀬の 11 である。江戸時代に 47 ヶ村(諸説あり)の村は明治 22 年の合併により現在の地区の原型ともいえる町村が出来た。その後、町村合併の動きは、大正 15 年から昭和 3 年までの間、合併促進の対象となる動きがあるものの反対意見が多く立ち消えとなった。それが昭和 6 年に再燃し当時の県知事が合併を促進する方針を示し、2 回の合併協議会が開かれたものの再び立ち消えとなった。所沢町と周辺村の合併は昭和 18 年に訪れた。この時の合併は所沢町と小手指村、吾妻村、松井村の 3 村と山口村と富岡村も加わる大型合併であった。戦時体制強化のなか県主導で進められ、戦時体制強化のいわば国策によるものであった。

2. 市制施行にいたる経緯と背景

昭和 24 年に行田市が市制施行に踏み切り、秩父市も翌年市制施行するという情報が入ると、市制施行への動きが高まった。県の後押しもあり所沢町が市制施行に相応しいとした 4 つの理由をあげていた。

- ①かつての軍施設(陸軍所沢飛行場)は進駐軍工場に転換し、ここへの勤務者が近隣町村から集まる状況であったこと。
- ②地場産業である織物業・製茶業もめざましい復興を示していたこと。
- ③武蔵野線(現西武池袋線)・西武線(現西武新宿線)で東京に通じており交通の便は東京の郊外都市となりうる可能性を示していたこと。
- ④山口貯水池をかかえ観光地(のちの西武園うえんち)としての期待がもたれていたこと。

所沢町では町当局・町議会が県内市制施行地の視察を実施し、昭和 24 年 11 月には町議会に諮って市制施行対策委員会が設置され、翌年には、各地区別の懇談会も開催され、昭和 25 年 8 月「所沢市の建設について」と題する依頼文が町民にむけて配布され、同月 25 日の町議会において市制施行が議決された。

3. 市制施行とめざしたもの

昭和 25 年 11 月 3 日所沢市が誕生した。記念行事は 11 月 19 日と 20 日開催され、銀座通りには山車が出て、大賑わいで市制施行を祝った。初代市長は町長を務めていた新井萬平氏が就任した。市制施行の際に新井萬平初代市長は「市政宣言」を読み上げた。

市制施行当時の所沢市の大きな課題は

一つは財政問題、戦後の教育改革(小中学校の義務教育)、警察改革(自治体警察制度)の実施にとまう経費の増加と物価上昇が相まって歳出の急激な増大があった。

もう一つは市街地と周辺の農耕地域との格差であった

そのようななか、翌年の昭和 26 年に最初の市長選挙があり当選したのは内田常光市長でした。

2 代目の所沢市長として取り組み実現した施策は、健全財政維持の基本方針のなか、高等学校の県立移管、南小学校の校舎建設や市庁舎増築、所沢病院の増改築、市道補修などで、所沢市都市計画街路決定の実施も評価しうる施策といえる。

4. 三ヶ島、柳瀬の合併

昭和 28 年 9 月、町村合併促進法の施行により、両村は合併する自治体の選択を迫られ、柳瀬村の行政管轄は所沢であったため、所沢市との合併は大きな議論はなく進んだ。三ヶ島村は豊岡町とのつながりが強かったこともあり、合併反対の住民は多かったようだが、どちらか選択しなければならないなかで、結局は所沢市への合併を選択したのである。

おわりに

戦後の市制施行により誕生した所沢市はその後、首都圏 30 キロ圏の 34 万人都市まで発展した。市制施行は決して順調であったわけではなく、困難を乗り越えて実施できた原因は、市政宣言のなかにある最後の下りに「所沢市独特の文化的個性発揮」「一切の文化施策こそ重要施策の一と言わねばならない」とあり、文化こそが一つにまとまる力であると講義の締めとなった。

質疑応答

1) 市になる利点

行政基盤の強化、市になることのイメージアップとなる。地域経済の活性化や企業進出など雇用の機会が増えるなどの波及効果が期待できる。

2) 国が大型合併を進めるのは

市町村の行政基盤の強化と行政の効率化を図る。国が市町村を把握しやすくなる。

3) 所沢市は文化を目指すとうたっているが博物館、美術館がないのは

箱モノ行政に抵抗があり、ランニングコストにも多くの予算が必要になる。

等の質疑応答があった。

所沢の歴史を学ぶサークルとしては今後もテーマを選択して学習していきたいものである
今回の講座は身近なテーマだけに多くの会員の参加者があり盛会裡であった。

本日の参考資料

所沢市史ダイジェスト版ところざわ歴史物語

所沢市の誕生テキスト

担 当

E グループ 中村恵子・伊藤裕章・内野克彦・小倉洋一